

住宅政策の基本方針等の設定の必要性について

【検討の枠組に関するこれまでのご意見】

- ◇ 現在の住宅マスタープランに掲げる10の目標は相互に関係が深い。10の目標の枠にとらわれず、フィールドを広げて議論することが必要。
- ◇ 都民の住生活に対するニーズは多様化している。都民一人一人が自分たちは将来どのような住生活を送ることができるのかイメージできる住宅マスタープランをつくるべき。
- ◇ 住宅政策におけるターゲットを明確にし、状況に応じた施策を講ずるべき。
- ◇ 人口減少をゆとりある良い環境が作れる機会ととらえる発想の転換も必要。
- ◇ 区市町村との連携強化は、個別の項目として議論するのではなく、各検討課題のなかで合わせて議論すべき。

【「東京都長期ビジョン（仮称）」の目指すべき将来像】

☆ 「世界一の都市・東京」の実現

- ◇ 「ここで生まれ、生活し、老後を過ごすことができ良かった」と思ってもらえる都市
- ◇ 世界のどこよりも上質な生活ができる都市

- ◆ 長期ビジョンも踏まえ、人口減少等に対する住宅政策の基本方針を示すべきではないか。
- ◆ 現行の住宅マスタープランにとらわれず、新たな目標設定や施策体系を示すべきではないか。
- ◆ その際、都民がイメージできる具体的な目標とすべきではないか。
- ◆ 区市町村との連携強化など、施策展開にあたっての着眼点について整理が必要ではないか。